

診療局：脳神経内科

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
臨時嘱託医員	中村 雄作
応援医師	宮下 典子

＜特色と概要＞

－診療の内容と特色－

- 脳神経内科は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など神経難病の診断・治療を中心に診療を行っている。
- 体の震え（振戦）やジストニア（痙性斜頸など）などの不随意運動症の診断治療や脳卒中後遺症などによる痙縮などへのボツリヌス治療を行っている。
- 脳神経内科専門医による外来を中心に取り組み、専門性の高い診療を行っている。
- 神経難病基幹施設として紹介型施設であり、医師会や他病院と連携して診療を行っている。

－対応疾患－

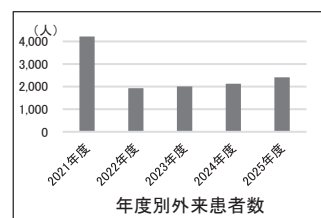
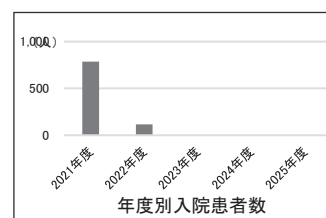
- ボツリヌス治療外来:痙性斜頸、顔面けいれん、眼瞼痙攣、上下肢痙縮など
- 神経難病(国の指定する難病疾患に対応している。):パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、多発性硬化症などの診断

- 脳梗塞などの脳血管疾患や脳卒中後遺症でボツリヌス治療対象症状を有する方など
- 頭痛、てんかん、失神などの脳機能異常症に関連する疾患
- 手足の震え（振戦）、不随意運動などの異常運動症の診断と治療

＜実績＞

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移)

年度	外来		入院	
	延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2021年度	4,218	17.4	787	2.2
2022年度	1,928	7.9	117	0.3
2023年度	2,011	8.3	0	0.0
2024年度	2,125	8.7	0	0.0
2025年度	2,414	10.0	0	0.0



＜今年度の成果と来年度への抱負＞

外来での継続診療を維持していきたい。マンパワーの確保に注力したい。

診療局：呼吸器内科

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
応援医師	3名

＜特色と概要＞

呼吸器内科専門医が不足している泉州南部地域において呼吸器疾患に対する診療を充実させるために、寄附講座により2012年4月、りんくう総合医療センターに開設された。現在もこれらの応援を得て、和歌山県立医科大学、大阪大学より医師の派遣を受けて診療を行っている。地域住民の診療に従事する(質が高く、安全性が保障された医療の提供)だけでなく、患者を中心として、医師、薬剤師、看護師との間で有益性のある医療連携(パートナーシップ)を築き上げ、高度先進医療の提供に貢献することが目標である。

長引く咳・痰、息切れ、呼吸困難感などの原因究明、さらに、胸部異常陰影に対する精査を通じて、広範囲に及ぶ呼吸器疾患の診療を行っている。日常の診療のなかで、慢性咳嗽、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの診断、治療、長期管理の質の向上に力を注いでいる。

慢性咳嗽の鑑別診断、気管支喘息の確定診断、COPDの確定診断と病期分類、気管支喘息とCOPDとの鑑別診断、管理などに寄与できるようにするため、これまでは最も簡易な肺機能検査(スパイロメトリー)しか行われていなかったが、現在は気管支拡張薬吸入前後でスパイロメトリーを行い、一秒量の変動で気道閉塞の回復を調べる可逆性試験(COPDの診断、病期分類には必須)を行っている。また、喀痰検査により喀痰中の好酸球の検索を図り、肺機能とは別に好酸球性気道炎症の検索から気管支喘息の診断、病態や治療の評価、COPDとの鑑別など、診療の質の向上に役立っている。

＜実績＞

患者数(外来延べ人数の推移)(人)

年度	外来	
	延べ患者数	1日平均
2021年度	995	4.1
2022年度	1,181	4.9
2023年度	1,648	6.8
2024年度	1,774	7.3
2025年度	2,053	8.5

